

言葉の力 燃料棒で表現

名古屋市東区のヤマザキマザック美術館で「情の深みと浅さ」展が開催され、現代美術を取り扱う市内18ギャラリーの推薦作家25人の作品が競演している。「情の時代」をテーマにする国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」に合わせた企画展。フランス人作家のセシル・アンドリュさんの仏語辞書を裁断してガラス管に詰めた作品が目を引きく。

アンドリュさんは現代美術家、荒川修作の作品と出会い、1990年代から「言葉の力」を可視化しようと制作している。ギャラリーHAM（同市千種区）の推薦作家の一人で、仏語辞書をシュレッダーで裁断し、原子炉の燃料棒に見立てた立体作品「潜在力Ⅰ・Ⅱ」などを出品した。

黒い箱に高さ18センチのガラス管が整然と並べられ、不気味な光を放つ。燃料棒の中の核

物質のように、言葉が恵みも災禍ももたらす力を表現した。アンドリュさんは「言葉は美しいと同時に恐ろしい。人を褒める言葉も殺す言葉もある」と語る。

14日まで。大人1000円、小中高生500円。午後5時閉館。

【山田泰生】

仏の作家がヤマザキマザック美術館で



セシル・アンドリュさんが仏語辞書を細かく裁断してガラス管に詰めた作品「潜在力Ⅰ」＝名古屋市東区のヤマザキマザック美術館で